

平成28年度第2回 豊川市子ども・子育て会議 会議録（要約）

平成28年9月29日（木曜日）
午後1時30分～午後2時30分
豊川市役所 本34会議室

1 あいさつ

白垣会長によるあいさつ
(略)

2 議事

(1) 豊川市子ども・子育て支援事業計画の見直しについて

【事務局説明の後、主な委員の質疑・意見及び事務局回答・説明】

- ・当初作成した計画を見直す必要性について、実態に合っていない部分は、それに合わせて現実の対応をしていけば、計画を見直す必要は無いのではないかと、思っていた。しかし、事務局の説明にあったように、「確保方策が減少する計画では、拡充のための補助金が付かないから見直す。」というのが、率直なところだ。やむを得ないと考える。
- ・利用者支援事業について、母子保健型に関する記載を盛り込むというのは、問題ないと考える。
- ・結局、拡充のための予算を確保するために、計画数値を増やさなければならないということか。

(事務局) まずは、計画では平成27年度以降量の見込みが毎年度減少し、平成28年度以降確保方策も毎年度減少する数値となっているが、いずれも減少するという傾向が現実と全く異なっているので、そこを見直したいということである。その次に、必要な施設の整備を進めたいときに、この計画が足かせになるので直したいということである。

- ・もともとは、計画の策定時に市民アンケートを行い、大幅なニーズがあるという数値結果が出ていた。ところが、そのまま計画数値とするのではなく、補正して少ない数字とした。近隣に親族がいる人や未就学児をニーズ量から除くなどの補正をした。あの当時は、まだ高学年が放課後児童クラブの対象として拡大される前だった。新制度が始まる前のニーズ量を補正して計画数値を減らしといて、ふたを開けたら現実が計画を上回っているから、計画数値を増加させるといふのは、釈然としない面もある。
- ・事務局としては、計画数値を現実に即したのを見直して、実際のニーズに合った事業を推進していくと説明している。そういう趣旨で、今回の見直しを理解できれば、と考える
- ・見直すのはいいが、見直し後の数値は本当にこれでいいのか。数年後に現実のニーズ量の方が計画数値をさらに上回り、また改正をしなければならないということにはならないか。

(事務局) 今回改正したら、計画期間が終了するまでは、さらに改正をする予定は無い。

- ・もともと子ども・子育て支援新制度は、女性の社会進出を促進するための政策でもあった。だとすると、高学年のニーズ量や確保方策が実績に基づいた低い

数値のままでもいいのか、とも思う。もっと増えるのではないか。

- ・利用者支援事業の1か所が2ヶ所に増えたのは、母子保健型の開始に伴い、保健センターが増えたということで、問題ない考える。
- ・国・県からの交付金というのは、事業ごとに分配されるのか。

(事務局) 基本的に事業ごとに分かれている。また、運営のための交付金と整備のための交付金があり、今回計画数値を見直すのは、整備のための交付金を確保していくためでもある。

(2) 地域型保育事業の設置に係る意見聴取について

【事務局説明の後、主な委員の質疑・意見及び事務局回答・説明】

- ・現時点での確保方策が1,237+12で1,249ということでしょうか。

(事務局) そのとおり。

- ・だとすると、計画数値は1,271なので、22足りていないことになる。しかし、実際の利用者数を考えると、ほぼ足りているということか。

(事務局) そのとおり。

- ・この資料には載っていないが、来年度の計画数値を見ると、確保方策は1,324であるから、それに近づけていくのか。

(事務局) そのとおり。これまで4・5歳児が使っていた部屋を改修して3歳未満児の部屋とするなどの対策を講じて増やしている。

- ・見込みとしては何とかかなりそうか。

(事務局) 当初の申込みがこれから始まるが、読みきれないところがあり、なんとも言えない。

- ・それは仕方がない。ただ、計画上は平成30年度まで増やすことになっているので、そういう方向性であることだけは認識をしておきたい。

3 その他

(事務局) 育児休業明け保育所入所予約制度についての説明。

(事務局) 第3回の会議については、12月16日に開催する予定。